

水田雑草「ヒレタゴボウ」の発生生態に応じた効果的な防除方法

利用対象：水稻生産者、指導者

アカバナ科の水田外来雑草「ヒレタゴボウ」は、十数年前から本県でも目立ち始め、2012年～2022年に実施した実態調査では県内の72%の圃場で発生が確認され、多発すると水稻栽培への影響が甚大となることから対策が急務となっています。

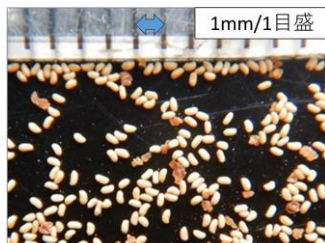
そこで、「ヒレタゴボウ」の出芽や生育条件を明らかにし、発生生態に応じた効果的な防除技術を確立しました。

ヒレタゴボウの特徴

- ・水稻成熟期には草丈が150cm程度まで生長
- ・蒴果は300個/株以上、種子は2000個/蒴果
- ・種子は千粒重が0.03gとかなり微細



7～9月に開花



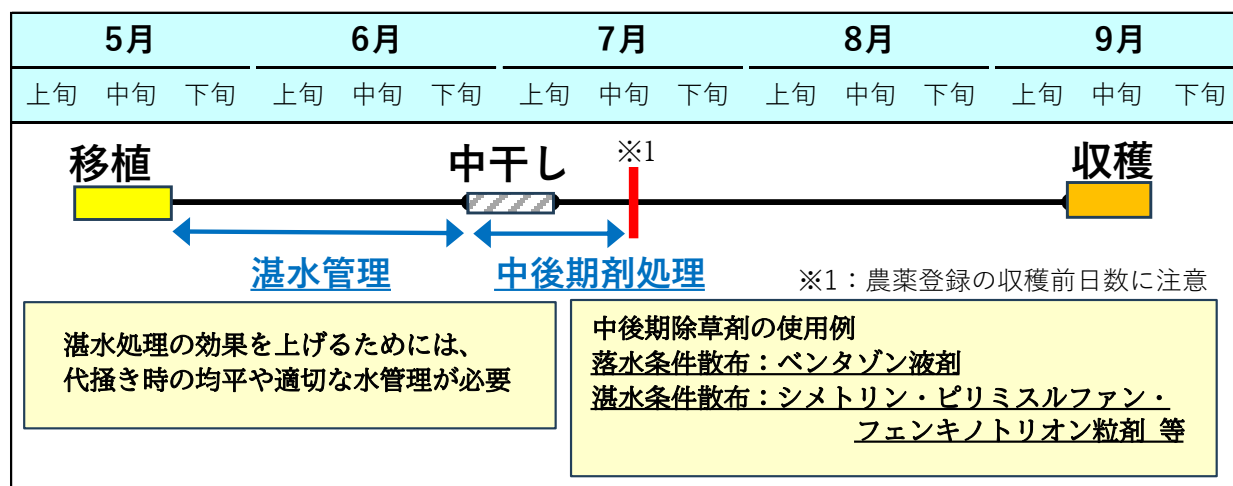
微細な種子

ヒレタゴボウは湛水条件下では生育抑制され枯死しやすい

水条件	生存数 (株/区)	乾物重 (g/区)
湿潤区	44.0	96.0
間断区	20.3	147.4
湛水区	0.0	0.0

湿潤区：湛水なし（湛水深-5cm）、間断区：田面が露出する程度を維持（湛水深±1cm）、湛水区：常時湛水を維持（湛水深5cm）。生存数は水稻成熟期に生存していたヒレタゴボウの株数。

ヒレタゴボウの防除体系（中生品種「みえのゆめBSL」の事例）



お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 中央農業改良普及センター 普及企画室	電話 0598-42-6359 電話 0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	